

教科	資質・能力	現在の児童・生徒の実態や授業についての分析	授業改善のための具体的な方策 【主体的・対話的で深い学び】
国語	知識及び技能	<p>○漢字やひらがな、カタカナを正しく書くことや、学習したことを適切に使うことができない。</p> <p>○語彙が少なく、どんな場面においても言葉遣いが話し言葉になりがちである。</p>	<p>○漢字学習に対する意欲が高い児童が多いので、漢字の成り立ちを絵で見せたり、漢字カルタなどのゲームを楽しみながら学べるような、児童の意欲がより向上するような授業を展開していく。</p> <p>○生活指導や道徳の時間を関連付け、相手や目的や意図、場面や状況などに応じて、どんな言葉を選んで表現することが適切であるか判断できるようにする。</p>
	思考力、判断力、表現力等	<p>○自分の伝えたいことを、要点をまとめて話すことが難しい。また、人の話を聞くことも難しい。</p> <p>○文章で自分の思いや、経験や体験したことを表現することが難しい。</p> <p>○話し合い活動では、自分の思いを話すことができても、相手の考えを聞き入れて妥協点を見つけることが難しい。</p>	<p>○単に発表させるのではなく、簡単な発表メモを準備してから発表できるようにする。</p> <p>○発達段階にもよるが、各児童の実態把握を的確に行い、その子に合った文量を自分の言葉で表現できるようにする。教員が聞き取り、見本を書いたものを視写することから始め、段階的に進め最終的には自分で考え、作文できるようにする。</p> <p>○少人数での話し合いの場を積極的に設定する。話し合いの仕方や振り返りを行い、スモールステップで活動を進めていく。</p>
	学びに向かう力、人間性	<p>○読書好きな児童が多い。</p> <p>○漢字の学習への意欲は高い。</p> <p>○語彙が少ないこともあり、言葉がもつよさについて感じている児童が少ない。</p>	<p>○絵本の読み聞かせや本の紹介などから、文章の表現の仕方や表現の美しさなどを児童が感じられるようにする。</p> <p>○自分の思いや経験や体験を文章で表現することや話し合い活動を通じて言葉での関りをもつことによって、言葉を使うことのよさを感じられる指導を行う。</p>